

事業名

革新的な飼料用米パウダー加工と
独自の配合技術提案による
地場の農畜産ビジネスの活性化

株式会社 勅使川原精麦所



〒327-0312
栃木県佐野市栃本町1725
TEL 0283-62-1225
FAX 0283-62-2229
URL: <http://www.teshigawara.jp/>

- 代表者名／勅使川原唯男
- 設立年／1946年
- 資本金額／1,000万円
- 従業員数／20名
- 事業内容／玄米の精米・破碎米加工
及び大麦の精麦加工・飼料加工

高品質・低価格の飼料用米で競争力を高め、
農畜産業界とWin-Winの関係づくりを目指す



飼料用米をパウダー状に加工するロール粉碎機 ME3125 (明治機械)

米生産者と畜産会社が抱える悩みに対応

当社は創業から数えて85年以上になる県内唯一の精麦工場です。都道府県別の生産量で栃木県がトップを誇る二条大麦の加工・販売を行うほか、外国産大麦やトウモロコシ、おからサイレージを飼料用に加工し、酪農並びに畜産農家に提供しています。

対象畜種は肉用牛がメインで、多くの畜産会社はこれまで当社で購入した大麦やトウモロコシを独自の割合で自家配合していましたが、近年は後継者難や人手不足などの理由から、手軽に使える配合飼料メーカーの製品にシフトするケースも少なくありません。

また、国においては主食用米ではなく飼料用米や米粉など他用途生産への変更を生産者に要請していますが、米生産者は需要や販路が分からないため二の足を踏んでいる状況です。畜産会社においては、飼料用トウモロコシの価格高騰など、飼料コストの増大が悩みの種でした。



異物除去の精度を高める粗選機 VR-31 (浅野鉄工所)



食品残渣飼料で新たな市場を開拓

飼料用米のパウダー加工で販路を拡大

そうした中で注目されているのが、価格や栄養面で代替飼料になり得る飼料用米です。ただし、トウモロコシに比べて米は固いため、通常粉碎程度では家畜の吸収効率が悪く、微粉碎（パウダー加工）の必要がありました。

そこで本事業では、もみ殻を含む飼料用米を微粉碎加工するために、ロール粉碎機を中心とした「飼料用米パウダー加工専用ライン」を新設しました。

当社においては、既存設備（大麦粉碎用加工ライン）と比べて粒度が上がることで肉用牛以外（乳用牛・豚・鶏など）の畜種への販路拡大が期待でき、同時に、高品質かつ低価格化で競争力を高め、供給過剰に苦しむ米生産者や飼料価格高騰に悩む畜産会社の課題解決に取り組みました。



玄米から石を取り除く石抜機（丸七製作所）

米の生産量調整の廃止が仕入れに影響

飼料用米パウダー加工専用ラインの稼働によって、これまで10t/日が限界だった粉碎加工が40t/日まで向上し、生産量が4倍になりました。

同時に、家畜品質向上の視点から当社がこれまでに培った配合調整のノウハウを活かし、トウモロコシの40～50%代替を基準として畜産会社別に代替配合比率を提案できるようになりました。

米生産者に対しては生産支援と買取をサポートした結果、地元の佐野市を中心とした県南地域約40～50軒の米農家の生産者ネットワークが確立できました。ところが、2018年の米の生産量調整（減反政策）の廃止により状況が一変し、飼料用米の調達が頭打ちになってしまいました。現時点で年間3,000～4,000tを仕入れていますが、米農家のエリアを拡大するなど安定確保に努めている状況です。



左が玄米、右がロール粉碎機でパウダー状に加工したもの

FUTURE ➡

将来の展望

株式会社 勅使川原精麦所
代表取締役 勅使川原 唯男

当社は微粉碎加工技術を強みに、製造業者から出た食品残渣を活用したオリジナル飼料の開発に取り組んでいます。その第1段がワイナリーから出るブドウの絞りかす（皮）と、飼料用米パウダーを合わせた発酵飼料です。実際に肉用牛に与えたところ脂の乗りがよくなり、肉質が向上するなど、うれしい声が上がっています。現在は廃棄された豆腐やおからを利用した飼料を開発中です。当社は飼料の開発を通して新たな畜産のあり方を支援します。